きばっちょいもんさ

「自然に惹かれ，自然を愛し，自然に帰ろう」
薩摩焼の世界に身を投じて

日置南洲窯
代表　西郷　隆文

鹿児島県日置市日吉町の里にある日置島津家菩提寺の吉富山大乗寺跡内に，陶芸の里「日置南洲窯」を築窯いたしました。陶芸への道は入るに易く，極めることの至難さは承知の上で出発いたしました。1978年２月に窯が完成してからは，「自然に惹かれ，自然を愛し，自然に帰ろう」と日夜，土と火にもてあそばれながら29年が過ぎようとしております。今，振り返ってみると，以前は学校を終えて東京のアパレルメーカーに飛び込み流行の最先端の業界で働いていました。「時代の先を読みながら，何もないところから物を作り出す」それが私の仕事でした。ただ，長男でもあり，いつかは鹿児島へ帰らなければならないという思いがありました。そんな時，かつて中学時代の美術の恩師であった有山先生に「いずれ鹿児島に帰るなら焼物でもやらないか」と誘いを受けました。結果的にその言葉が私の心を動かし，その後の人生を陶芸家の道へと導いていただいたのです。

1973年に鹿児島へ帰り，鹿児島市谷山の企業組合長太郎焼窯元で修行が始まりました。その後，30歳の1978年に前述の場所にて独立，現在に至っております。

現在，工業技術センターとは，さつま工芸会で関わりを持っています。その前身である鹿児島ハイテく研究会の１つとして平成４年に発足し，鹿児島の伝統的な工芸品や各種の素材を扱う企業の経営者及び技術者の異業種交流をメインとし活動を行っていました。手探りながら，異業種の素材の組み合わせによる新しい工芸品の開発を一生懸命に取り組んでいたことを昨日のように思い出します。その頃は，陶と石，あるいは陶と漆との研究をしておりましたが，近年には陶胎漆器，茶盛，茶入など完成度の高い作品が出来上がっております。私と漆作家の橋口直由氏とのコラボレーションで作り上げた作品であり，日本で我々しか持っていない作品と思います。

一方，平成９年８月に薩摩焼65窯元の参加を得て，鹿児島県陶業協同組合を設立しました。初代理事長に就き現在に至っております。組合員数も増えるなど着実な進展を見せ，薩摩焼の振興，普及に努めてまいりました。その甲斐もあり，平成14年１月30日には，薩摩焼が国の伝統的工芸品として経済産業大臣の指定を受けるに至りました。

これからも，窯元相互の交流や技術の向上，薩摩焼業界の更なる地位の確立を目指し，数々の活動を行ってまいります。皆様の一層のご指導とご鞭撻の程を心よりお願い申し上げます。

南洲窯工房風景

南洲窯ギャラリー風景